



営農NEWS



ダイズベと病や葉焼病または吸実性カメムシ類 の防除を徹底しましょう

ダイズ栽培では開花が終わって莢伸長～子実肥大期に入りますと、莢の食入害虫や吸実性カメムシ類、さらに、ハスモンヨトウやオオタバコガ、ツメクサガなど葉を食害するチョウ目幼虫の発生も多くなります。また、昨年、発生が多かった葉焼病をはじめ葉や子実に病徴を示すべと病や紫斑病などが発生しますので、防除対策には十分な注意が必要となります。

病害虫発生予報 9 月号（県病害虫防除所）によりますと、8 月下旬現在、ダイズベと病の発病度は「納豆小粒」で本年値 22.5（平成 10.0）、発生地点率 100%（平成 72%）と高く、「里のほほえみ」でも「納豆小粒」と同程度の発生状況とのことです。また、両品種よりやや強い「タチナガハ」でも発病度 0.8（平成 0.2）、発生地点率 25%（平成 9%）と平成より高い発生状況で、べと病は平成より多い発生になると予想しています。さらに、葉焼病も 8 月下旬現在、平成よりやや多い～多い発生状況です。害虫では、吸実性カメムシ類の 25 株当たり寄生虫数 0.8 頭（平成 0.5 頭）、発生地点率 46%（平成 21%）と高い状況で、平成よりやや多い発生になると予想しています。

7 月下旬から 8 月にかけて、天気は曇雨天や日照不足で経過し、今後ともこの傾向が続くと予想されていますので、病害の発生を助長すると考えられます。また、害虫の発生は、地域的に偏ったり、圃場の中でも偏って集中して発生する場合がありますので、圃場全体をよく観察し、発生動向に十分な注意が必要となります。

【べと病防除のポイント】

- 比較的に冷涼で、雨が多いときに発病します。主に、はじめ葉に淡黄色の小斑点を生じ、後に融合して不整形の褐色病斑に変わります。子実が侵されると、表皮が黄褐色のかさぶた状になり、健全粒に比べて小粒になって、商品価値が低下します。
- 発生初期から、薬剤防除します。散布は、葉裏や莢にも薬剤がかかるように丁寧に行います。また、薬剤耐性菌の発生を抑制するために、系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

表 1 ダイズ ベと病、葉焼病の主な防除薬剤（平成 29 年 9 月 4 日現在）

薬剤名	べと病	葉焼病	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ランマンフロアブル	○		1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
レーバフロアブル	○		1,500～3,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
プロポーズ顆粒水和剤	○		1,000 倍	収穫 21 日前まで / 2 回以内
フェスティバル C 水和剤	○	○	600 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
ベトファイター顆粒水和剤	○		2,000～3,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内

【吸実性カメムシ類防除のポイント】

- 吸実性カメムシ類の防除適期は、莢伸長期（開花後 15 日くらい）～子実肥大中期（開花後 40 日くらい）頃です。莢伸長期に 1 回目の防除を行い、その後 10～14 日おきに 2～3 回の防除を行ってください。
- カメムシ類はダイズの莢が黄熟する頃まで加害しますので、発生が多い圃場では防除適期以降でも農薬の収穫前日数に注意して防除を実施してください。
- 薬剤散布は、莢にまで薬液がかかるよう十分量を散布してください。特に、圃場周縁部ではカメムシ類の寄生が多い傾向がありますので、丁寧に防除を行ってください。

表 2 ダイズ カメムシ類の主な防除薬剤（平成 29 年 9 月 4 日現在）

薬剤名	希釈倍数または使用量	使用時期 / 使用回数
スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
MR. ジョーカー粉剤 DL	4 kg/10a	収穫 7 日前まで / 2 回以内
キラップフロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
トレボン乳剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 21 日前まで / 4 回以内

農薬を使用する際には、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040